

発行 ノートルダム清心女子大学附属小学校同窓会  
〒700-8516 岡山県岡山市北区伊福町2-16-9  
Tel 086-252-1486 Fax 086-252-9080



ノートルダム清心女子大学 附属小学校同窓会

デザイン 株式会社 サラト  
印刷 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172  
Tel 079-284-1380 <http://www.salat.co.jp/>



修学旅行・軽井沢の聖パウロ教会で神父様からお話をうかがう

## Contents

会長あいさつ……………	1	卒業生たちの活躍……………	8
特集1 修学旅行の思い出 ……	2～5	お知らせ・編集後記 ……	8
特集2 昔、プールは伊福町にあった ……	6～7		



同窓会会長  
1期生

西川 智晴

## ご挨拶



この同窓会報も服部校長先生をはじめ関係の皆様のご協力により毎年発行することができ、今回で8回を数える号となりました。改めまして皆様に御礼を申し上げます。

来年度は、いよいよ清心小学校創立50周年を迎えます。母校である清心小学校のますますの発展に少しでも寄与できますように同窓会として活動してまいりたいと思っておりますので、引き続き皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

さて、今年は4年に1度の夏季オリンピックの年でブラジルのリオで開催されました。日本は過去最高の41個のメダルを獲得することができ、次回開催国として素晴らしい結果でありました。この成果は、参加した選手のお一人お一人の努力は勿論のことですが、関係した方々の協力があったからこそ成果であったのではないかと思います。多くの選手のコメ

ントでもそれぞれのコーチや関係者、両親・家族への感謝を述べられていました。このような感謝の気持ちが無くては、偉業は成し得ないと改めて感じました。また、今回のオリンピックでは、逆転勝ちをした場面を多々目にすることができ、最後まで絶対にあきらめない姿勢に感動をいたしました。どんな困難があっても最後まであきらめないことがとても大切なことだと感じました。オリンピックを見られた皆さんはどのように感じられたでしょうか。

話は変わりますが、今年も熊本の震災をはじめ多くの災害が発生しております。私たちが日頃から常に災害に対する備えをしてなくてはならないと思います。被災された皆様にはこの場を借りてお見舞いを申し上げ、1日も早く復興されますように心よりお祈りいたしております。

最後になりましたが、今回の会報では、現在でもほぼ変わりなく続けられている修学旅行の思い出と水泳学習について特集しており、卒業生の皆さんには、懐かしく読んでいただけるものと思います。今回も貴重な原稿を書いていただいた皆様に深く感謝し、同窓会会長としてのご挨拶といたします。



第10代校長  
家光大蔵

## 6年間の修学旅行を振り返って

信州長野の修学旅行には6回引率して行きました。岡山の公立小学校は1泊2日で大阪、奈良、京都に行きましたが、清心小学校では3泊4日、長野県での長い修学旅行でした。黒部ダム、軽井沢教会、白根山、松本城、善光寺、鬼押出し、中山道宿場町等、いずれも子どもたちにとってすばらしい体験となった修学旅行だったと思います。ホテル宿泊、高原でのバームクーヘン作り、りんご狩り等の体験も心に残った体験ではなかったかと思っています。

この3泊4日の修学旅行は、子どもたちにとって集団行動や自分の生活を見直すよい機会ともなっていました。子どもたちは、一日の集団での行動や食事、バスの中の過ごし方を毎日振り返り、4日間健康と安全に留意しながら取り組んでいました。これも引率の先生

方の綿密な計画と適切なアドバイスによって無事に修学旅行を終えることができました。公立小学校にはない、この3泊4日の修学旅行はいろいろな意味でよき体験・よき思い出となった修学旅行ではなかったかと思っています。

6年間、子どもたちと一緒に遊ぶことができました。また、先生方や保護者の皆様の温かいご支援・ご協力を得て取り組むことができ、とても楽しい6年間でした。その後の6年間、本学に残り、大学の文部科学省採択事業等のコーディネーターとして保育職・教職をめざす学生に関わることもできました。

清心小学校はミッションスクールとして英語や中学校進学等で特色ある取組をしています。私学としてのよい面を生かして、これからもお預かりしている子どもたち一人一人を大切にしたい温かい学校として継続して取り組んでいかれますことを心から願っております。

# 特集 ① 修学旅行の思い出

### 現在の行程

期 日	行 程
1日目	8:22 岡山駅 → ひかり462号 → 10:33 名古屋駅 → 10:50 中津川IC → 12:20 木曾路元起 → 13:00 ●昼食 <small>24ホーム 15ホーム</small>
2日目	8:10 ホテル → 8:30 松本城 → 9:40 旧開智学校 → 11:10 扇 沢 → 11:30 黒部ダム → 13:35 ●昼食:弁当 <small>●安曇野スイス村</small>
3日目	ホテル(ホテルにて体験学習) → 10:10 ホテル → 11:40 聖パウロカトリック教会 → 12:40 鬼押出し園 → 15:00 ●昼食 <small>●やまぼうし自然学校 バームクーヘン作り、雨天時⇒森のキーホルダー作り⇒旧軽井沢森の美術館見学</small>
4日目	8:10 ホテル → 9:00 りんご園 → 10:00 梓川SA → 10:50 恵那峡SA → 13:10 名古屋駅 → 15:11 ●昼食:弁当 ※屋外噴水前付近集合 16ホーム <small>中条フルーツ農場 須坂店 ●木曾路元起</small>

(おことわり) このご旅程表は運輸機関のダイヤ改正及び各地の道路状況等により多少行程が変更になる場合がございます。

## 修学旅行はなぜ信州に行くの？ なぜ3泊4日なの？

「妻籠宿に始まり、リンゴ狩りに終わる」という3泊4日の清心小学校の修学旅行は今も健在です。卒業生で子どもさんも清心小に通われた方が、「娘が自分と同じ修学旅行のコースに行くなんて」と感慨深げに語っておられたことを思い出します。

3泊4日で信州に行くことになった経緯を調べていて、10周年の記念誌に手がかりを見つけました。

当時から岡山市の小学校では、京阪神・奈良方面で1泊2日の歴史を中心とした修学旅行が計画されていたようです。新幹線の開通でそれらの地域が日帰りの圏内に入ってきたことから、「学習した事柄を実際に見学して学習の確かめをするとともにあわせて見分を広めるとの見地からやや小学生としては日程が多いが3泊4日の日程で実施した。」というのがその理由らしいです。児童に学習の内容をより感動的にとらえさせたいとの思いで、歴史的なことに加えて、社会的なこと、理科的なことも計画に取り入れていったようでした。

なぜ信州に決まったのかは結局よく分かりませんが、東京での研修の帰りに、予定地を実際に下見されたことが記録にありました。昭和47年10月に行われた第1回目の修学旅行が「天候に恵まれたことと児

童のマナーのよさで、すこぶる快適な旅行ができ、実り多い旅であったので、以降毎年実施するようになった。」とありました。

その後、時代の流れの中で、少しずつコースは変更されてきています。

島崎藤村の小諸懐古園、軽井沢タリヤセンやペイネ美術館、川中島古戦場、草津西の河原公園、旧軽井沢森ノ美術館などには行った世代と行かない世代があると思います。

キリスト教の学校らしく、善光寺だけでなく、軽井沢カトリック教会へも行くようになったのは、2001年度からです。

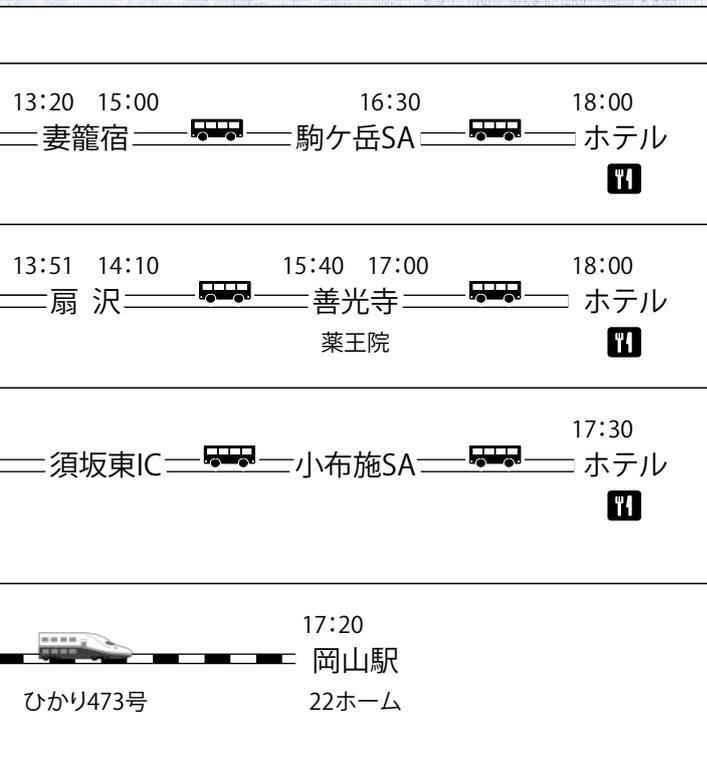
同じ2001年度からは、見学だけでなく体験学習を取り入れ、リンゴジャム作りなどが始まりました。しかし、慣れない包丁でけがをすることが数年間続いて、現在のバームクーヘン作りに変更になりました。

天候がよくないと登山が中止になることがあった草津白根山は、現在、噴火警戒レベル2で入山規制がかかっていて、とうとう最近コースから外れました。エメラルドグリーンの湯釜を見ることができた時代は遠くなったようです。

長野駅舎の改修と新幹線の開通、長野オリンピックの関連施設など、長野市の変化もいっしょに見てきました。

振り子電車への乗り換えは疲れた体にはつらいということで、バスでの行程が増え、私服OKから体操服のみへ変化したのも最近の特徴です。

大きなビデオカメラを担いで行って記録を残していた頃もありましたが、最近は、小学校のホームページへ、リアルタイムで修学旅行レポートが届く時代になっています。



挿絵は、井上由香（4期生）による

## 修学旅行

### 先生方の思い出って

何？



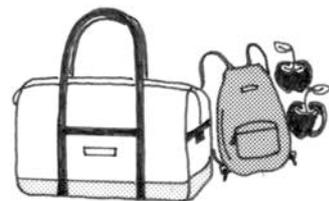
### 長野から岡山までバスで帰る！



千葉俊恵先生

田中信良先生

- Q. (挨拶) 先生方は何度も修学旅行の引率の経験があるそうですが、特に印象に残っていることといえば、何でしょうか？**
- A. 夜の見回り行方不明の巻とか、リンゴ風呂のリンゴに歯形の巻とか…いろいろありました。
- A. うーんそうですね。でも、最も印象に残っていることと言えば、最終日、台風で新幹線が止まった時のことですかね。
- Q. えっ！どうやって帰ったのですか。**
- A. 名古屋で足止めを食らい、当時の校長先生中心に検討の末、帰路はバス旅行ということになりました。バス会社の方々に感謝です。
- A. 今考えると、とにかく無事に帰って来ることができて本当によかったです。
- Q. 急場の対応は大変ではなかったですか？**
- A. 何も予約のない行程ですから、例えば夕食確保のために、サービスエリアでおにぎりを百数十個買いあさりました。
- A. S A一カ所では揃わないので、何カ所か回りました。周囲のお客さんが「どうしたの？この人！」って目で見てましたよ。
- A. 買い占めるのは他の方に申し訳ないし、視線は痛いし恥ずかしいし…大変でした。
- A. でも、あのときの児童たちの明るさ・チームワークのよさには助けられました。
- A. 不安もあったと思いますが、「これもいい思い出！」と盛り上げてくれる児童も「しんどい人のために静かにしよう」と思いやりのある声かけをしている児童もいました。
- Q. それは素晴らしいですね。**
- A. アクシデントが逆に結束を強めたり思い出を深めてくれたように思います。
- A. まあ毎年は勘弁してほしいですけどね。
- Q. そうですよね(笑) 今回はご協力ありがとうございました。  
…というわけで、ここだけの修学旅行秘話をいくつかお話しいただきました。**





神野 恵  
17期生

## 修学旅行の思い出&近況報告

清心小学校を卒業して26年、鮮明に覚えている記憶とうろ覚えの記憶があるため、卒業アルバムを数年ぶりに見てみました。1日目は妻籠宿の見学、2日目は松本城・旧開智学校・黒四ダム・善光寺の見学、3日目は川中島古戦場・小諸懐古園・鬼押し出し園・白根火山の見学、4日目はりんご狩りという内容でした。黒四ダムは、イメージで抱いていたよりもスケールの大きさ・迫力にビックリし、言葉に出来ない光景が広がっていた記憶があります。また、鬼押し出し園での荒涼とした溶岩の原野風景に圧倒され、ゴツゴツとした溶岩石が目にも焼き付き、

こんなものが飛んでくるなんて、と自然の威力を実感した記憶があります。私の学年は1クラスで、27名（男子5名、女子22名）と人数が少ない分、みんな仲良く和気藹々とした学年でしたが、車中や夕食後のレクリエーション等を通して、さらに絆が深まり、普段感じられない感情や考え方を身につけることが出来る修学旅行でした。

現在、長女が母校でお世話になっています。私が学んだ思い出深い校舎は無く、明るく開放的で近代化した校舎となっていますが、制服や黒いランドセルは当時のままです。学年を超えて生徒達の距離が近く、上級生が下級生のお世話をするという、面倒見の良さも引き継がれています。そして、私が在校していた頃にお世話になった先生方も現役で、昔と変わらぬ笑顔で迎えて下さり、とても懐かしく当時の学校生活が思い出されました。

最後になりましたが、清心小学校および同窓生の皆様の今後益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



石井 尚子  
(旧姓 國富)  
1期生

## 蜜入りリンゴと黒四ダム

修学旅行の思い出のキーワードと言えば、黒四ダム、妻籠宿、善光寺、白樺湖と断片的な事だけで、過去を紐解いてみるのに少々時間を要するようです。思い出について何を書こうかと家の中を探し回っておりますと、思いもかけず卒業記念の文集と「修学旅行」の作文が出てきたのです。作文は原稿用紙二十二枚、旅の日程を書き綴っただけのような内容でしたが、それでも小学生の私にとっては大旅行だったようです。特に扇沢駅からトロリーバスに乗って黒四ダムを訪れた時の様子がしっかり書かれていたのは感動が大きかったからでしょう。その後行った信濃大町でのリンゴ狩りも初体験。園で一つ食べ、お土産に二つ持ち帰ったようで、恥ずかしながらリンゴ狩りの事はすっかり忘れていたのです。

作文を読み終えて、小学生の修学旅行にしては四日間の長旅をよく親たちは許したものだと思い、実家の母に電話をしてみました。すると、県下で初めての私立小学校という事で、他校にはない素晴らしい経験と思い出を子供たちに作ってやりたいという思いが強かったと話してくれました。快く子供たちを送り出してくれたようです。そして私がすっかり忘れていたリンゴの事は母の方が憶えていました。「岡山では食べた事がないような蜜がしっかり入ったとってもおいしいリンゴをお土産に持って帰ってくれたよね。」と。今回、楽しかった思い出を呼び起こす事が出来ました。今も伝統は続いていると聞いています。子供たちにとって貴重な経験と良い思い出が増えますように。



# 昔、プールは伊福町にあった

## プールは、保護者会の協力と工夫で建設された!

建物が立ち並ぶ今の伊福町キャンパスから考えるとプールがいったいどこにあったのかと思えますが、当時の人たちの苦勞を振り返るには、今回も10周年記念誌がたよりになりました。当時の鷲江保護者会会長の言葉を中心にたどってみます。

「私たちの子どもの学ぶ附属小学校に他校並みの水泳プールを造ってほしいとの願いは長い間の懸案でしたが、大学構内に適当な場所がなく、校長先生の積極的なお気持ちもなかなか実現困難のままでしたが、保護者の間では早くしないと1期生が卒業してしまうとイライラしてしまいました。」

では、それをどう打開されたのでしょうか。

「水泳期間中組立使用し、その後は解体して格納できる組立プールが発売されましたので学校にお願いしたところ…大学体育館前の敷地に水泳期間中使用許可が出ました。」とありました。組立式といっても、プールの大きさは、縦20m、横10m、水深1mで、5コース、消毒槽、シャワー、洗顔器、柵などを含んだ立派なもので、価格は約254万円とありました。当時の250万円は、今でいうといったいどれくらいになるのでしょうか。

ちょうどこの頃に、マリアンホールへ全学年が移転するための工事などが進んでいて、大学は莫大な資金を必要として

いたようで、プールの建設資金は、保護者会で工面することになったと書かれていました。

岡山市から50万円助成していただいたり、



旧マリアンホール時代

保護者から寄付を集めたり、バザーの収益金を当てたり、いろいろと工夫された様子が書かれていました。資金は順調に集まり、残高でマシンや図書などを購入したとの報告があり、当時の保護者の皆様のプール建設にかける熱意が感じられました。

こうして昭和46年の7月にプール開きをして念願の施設ができ上がりました。組み立て作業は、炎天下での保護者の奉仕活動で行われていたようで、スコップや手押し車で砂を運ぶ人、組み立て作業に当たる人など、手分けして行われた様子が記念誌に書かれていました。

作業の大変さもあり、水泳シーズンのみ大学の敷地内に組み立てられていたプールが、途中で運動場の西北に固定されるようになりました。その様子が、上の写真です。

その後、年月の経過とともに施設が老朽化したことに伴い、昭和62年夏から新設された一宮プールに役割を譲ることになりました。

## 水泳教室の思い出



赤羽 美鳥  
3期生

私たち三期生が低学年だった頃、まだ校内にプールがなく、わざわざ県営プールまで歩いて通っていました。初めてプールができたのが三年生か四年生の頃で、簡易の組み立て式のものでしたが、待ちに待ったプールが組み上がったときは、これから思う存分楽しめるとわくわくしたのを覚えています。

当時は夏休みに水泳教室があり、ほとんど毎日通っていました。今でもクラス会を開くと話題になるのが、藤勝福子先生の猛特訓です。先生も子供たちと同じように、真っ黒に日焼けして、夏休み返上で厳しい指導をして下さいました。先生の号令、鳴り響くホイッスル、鼻に水が入ってツンとする感覚、特訓の後の体の気だるさなど、まるで昨日のように思い出されます。教室では、水泳帽に黒いラインを縫い付けて、基礎クラスが一本線、上級が二本線という具合に、クラス分けをしていました。私は運動が苦手で、体格も小さかったので、なかなか長い距

離を泳ぐことができませんでした。しかし藤勝先生の愛情たっぷりのしごきのお蔭で、高学年になる頃には、上級クラスに上がることができました。水泳帽にもう一本ラインが増えたときの喜びは格別でした。

私が過ごした六年間は学校創成期にあたり、校内全体にいい小学校を創ろうという熱っぽい機運が感じられました。先生方、児童、父兄の方々の関わりも濃密で家庭的であったように思います。人生の土台づくりとなる、大切な子供時代を清心小学校で過ごすことができたことを誇りに思っています。



## プール授業の思い出

藤勝 福子

昭和50年当時、清心小学校は学内の仮設プールで授業を行っており、私はその指導に当たっていました。仮設の、必ずしも恵まれているとは言えないプール施設の中でも、子どもたちの水泳に打ち込む姿は素晴らしく、「状況に負けない直向きな」清心小学校の気風を感じる機会であったと記憶しております。

バタ足や、手のかき方、息継ぎなどの地味な基礎練習にも手を抜かず、困難な課題にぶつかっても、それを乗り越えようと努力する姿が各所に見られ、その努力が成果として子どもたちの身につについていくことが、指導していて何よりの喜びと、私自身の学びとなっていました。

子どもたちそれぞれに物語があり、誰を取ることも難しいのですが、強いて一人、印象に残った生徒を挙げるならば、水が怖く、顔をつけることすら困難であった、男子児童のエピソードがそれにあたると思います。彼は、水の恐怖を克服して、徐々に水の中で恐々ながらも「泳ぐ」ことが出来るようになると、そこからはまさに「水を得た魚」のように泳ぎを磨いていき、持ち前の負けん気も手伝って、プールを所狭しと泳ぎ回ることが出来るようになったのです。子どものささやかな勇気に努力や、その子の持ち前の長所が加わると、必ず何かの成果が生まれるんだということを強く実感出来た瞬間でした。



水泳を通して、子どもたちから成長という成果をプレゼントしてもらえたことが何よりも嬉しいことですが、努力が形となって評価された瞬間、岡山市の水泳大会での男子チームの優勝は、この

成果が具体的に感じられる機会となりました。表彰式での子どもたちの誇らしげな様子と、その後の練習意欲の向上は、子どもたち自身のやる気に火が付くと、結果も継続も自ずとついて来るのだと、私に気づかせてくれた気がします。

「それぞれがその子なりに直向きで、努力をしたいと思える」そんな子どもたちが育っていく清心小学校の良き伝統が、いつまでも続いていき、子どもたち、それを見守る先生たちが、ともに喜びと成長を分かち合うことが出来るよう願っております。

藤勝先生は、清心大学で長く体育講義を担当しておられました。小学校体育にも積極的に関わって頂き、教職員一同、多くの場面でご助力を賜ってきました。

先生の朗らかで穏やかなご性格は、いつも研究室に人が集い、笑い声が絶えなかったことが証明しており、真摯に人と関わられる姿勢が、指導してきた多くの学生に学びと助力をもたらしたと推察いたします。

時折の厳しいお言葉も、人を思いやる気持ちに包まれた激励に聞こえ、私自身、関わりの中で励まされた場面が思い返されます。

先生にご教示を頂いた「教え子」の一人として、深い感謝と尊敬の念を申し上げます。  
(千葉俊恵)

## 楽しみだった一宮でのプール教室



西川 普子  
32期生

小学校時代、夏の一大行事といえばプール教室でした。もちろん、プールで泳ぐのも楽しみでしたが、なんといっても一宮の体育館まで行く際に乗るバスの中です。

先生や友達とわいわい喋ったり、流行りの歌をみんなで歌ったりと、にぎやかで楽しい時間だったのを覚えています。



体育館について更衣室に入り、着替えをしている時までもお喋りが止まらず騒いでいて、女子たちみんなで先生に怒られたこともありました。

プールで泳げる嬉しさと、いつもの時間割とは違う特別感で気分が更に高まっていたのでしょうか。

帰りの車内でも、疲れてぐったり…ということはなく、行きと同じように楽しい時間を過ごしていたなと思うと、やっぱり子どもは元気だな～と感じます。

「一宮までわざわざバスで」と思う方もいるのかもしれませんが、私にとって一宮までバスで向かう道のりは、「プール教室の楽しかった思い出」として一番に思い起こされる、大切な時間となりました。

## 不得意な子にも行き届いた対応



渡邊 知沙子  
32期生

私は小学校の時から泳ぐことが得意で、Dブロックという小学校の大会に出させていただいた経験もあります。その時に初めて他の小学校のプールに行き、清心小学校のプールの広さ、床の綺麗さに驚いたことを覚えています。みんなでワクワクしながら遠足気分バスに乗り、今日私が真ん中！と、よく真ん中の席を取っていたことを思い出します。

そして大きな体育館につき、一目散に大きな更衣室へ行き…と、とてもはしゃいでいた思い出があります。

プール教室に行く生徒さんの中で、中にはプールが苦手な生徒も居ると思います。ですが、得意な生徒と苦手な生徒の内容も様々で、得意不得意を指摘することなく先生方はそれぞれの生徒にあった対応、内容の授業をしてくださっていたので、プールが不得意で嫌いな生徒にもとても安心できる内容にしてくだ

さっていたことを今思い出すと本当に感動しています。

休憩時間に、違うコースの中の良い子もみんな混じって仲良く遊べるのも楽しくて、普通の学校なら、休み時間は着替えて、ないと聞きましたが清心小学校は特別な場所まで行くからこそ、プールの授業もしっかり時間をとってくださり、休憩時間は遊ぶプールに早変わり！といった感じでとても楽しかったです。特に、先生方が急に水面に投げる「消しゴム」をみんなで必死にとる恒例の行事は大好きでした！

夏休みも、周りのお友達とのお家の距離が遠いからこそ毎日会うことは難しかったですが、大好きなお友達とプール教室に行けば会えるので、どのお洋服を着ていこうか悩みながら行ったのを思い出します。

清心小学校のプール教室は他の小学校と違うからこそその内容、一学年の生徒数が少ないからこそその先生方の心配りがたくさんわかるのだと感じています。

このような楽しい環境へ、行かせてくれた両親へ感謝の気持ちでいっぱいです。

# 卒業生たちの活躍



岡田直子  
24期生

## 感謝のこころ

清心小学校の私立ならではの豊かな教育。私にとって、そのすばらしさがわかったのは卒業してからでした。昼食や下校の前に感謝のお祈りをしたり、掃除の合図としてさりげなくチャイコフスキーがかかっていたり…。他の中学校へ進学した私は最初の頃、お祈りをせずに食べ始める回りの生徒たちに戸惑いを覚えたものでした。

現在私は源 吉兆庵で広報と美術館の運営に携わり、地域貢献の一環で行っている工場見学も担当をしています。毎年数校の児童たちが工場を訪れ、その中には清心小学校の3年生もいます。工場の中の機械やお菓子の説明を受けて勉強した後、皆さんが一番楽しみにしている試食の時間があります。清心小学校の皆さんは、「神様、おいしいお菓子をありがとうございます。」と小さな手を合わせてお祈りをします。その姿に私たち従業員はいつも感銘を受け、私自身この小学

校を卒業していることを誇りに感じる瞬間です。そして、後日届けてくださる感想文では「嫌いなあんこが好きになった!」や「大人になったら源 吉兆庵のお菓子をたくさん買っていきます」といった嬉しい言葉が書いてあります。工場で見えた大きな機械やできたての温かいお菓子を食べた感動をいつまでも覚えてもらえると嬉しいなと思います。



工場内を説明する様子

また、源 吉兆庵では文化と芸術を広めたいとの想いで、吉兆庵美術館を運営しています。岡山の伝統工芸品である備前焼を常設展示し、同時に企画展も開催しています。現在は「江戸の娯楽と雅び」という企画で江戸時代に流行した相撲や歌舞伎の浮世絵と遊戯道具を展示しています。ぜひ皆様も一度お立ち寄りくださいますと幸いです。

最後になりましたが、清心小学校と卒業生のますますのご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

## お知らせ



### 今年の保護者会バザーは2016年10月30日(日)です。

今年は、次の日程で、保護者会主催のバザーを開催いたします。日時：10月30日(日) 9:30～13:00  
毎年、同窓会コーナーとして、卒業生のお部屋を用意していただいています。そちらでは、恩師の方々や同窓生の皆さんと楽しく歓談することができます。  
また、同窓生の皆様からご提供いただいた物品の販売もしております。ご家庭のご不用品がございましたら、小学校にお持ちいただければありがたいです。ご一報いただければ、取りにうかがうこともできますので、どうぞよろしく願いいたします。

### 清心小学校 平成29年度児童募集

願書配布	平成28年9月1日(木)から
願書受付	平成28年11月1日(火)・2日(水)・4日(金)
面接期日	平成28年11月19日(土)

4月から1年生になる予定の方がいらっしゃったら、是非ご紹介下さい。  
10月30日のバザーの時にも、入学相談コーナーを開設しています。

### 清心小学校 同窓会メーリングリストのご案内

同窓会事務局から、バザーのお知らせ、同窓会報の発行情報、評議員会など集会の案内をお送りします。以前登録された方も、携帯電話を買い替えたり、アドレスを変更されていたりしていないか、確認していただけるとありがたいです。

#### 登録方法

① メールアドレスを登録される携帯電話等から次のメールを送信して下さい。

To 宛先:tr-3@nds-u.ed.jp

Su 件名:アドレスの登録

内容:清心小同窓会のメーリングリストに登録します。○期生氏名○○○

- ② 送信された方のアドレスがこちらに表示されますので、それをコピーして登録します。
- ③ 登録が完了したことを返信メールでお知らせします。
- ④ ご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお尋ね下さい。
- ⑤ パソコンからのメールを拒否する設定など迷惑メール対策で、やり取りが出来ない状態になっていないかご確認下さい。
- ⑥ アドレスの変更があった場合は、ご面倒でもご連絡をいただくと幸いです。



## 編集後記

来年度は、いよいよ創立50周年記念を迎えます。カウントダウン企画として昨年度より同窓会報は運動会特集とソフトボールチーム“清心ジャガーズ”の歴史をたどり、今年度は修学旅行特集と水泳教室を企画しました。清心小学校卒業生なら誰でも共通の思い出を楽しんで頂けると思います。

編集会議中でも、年代により大きく変動した点に驚いたり、また一貫して変わらない清心小学校らしい信念に改めて感じたりと、おおいに盛り上がりました。

創立50周年記念にあたり一人でも多くの同窓生が集まり、大きな輪となるように願っていますので、どうかメーリングリストに登録して、今後の行事にご参加ください。

まずは10月30日のバザーでは“同窓会コーナー”があります。おいしいお菓子とお飲み物をご用意していますので、お気軽に遊びに来て下さい。皆様のお越しをお待ちしています。新校舎をまだ見ていない方も懐かしい学び舎を訪ねて来て下さいね。  
西川眞記子(4期生)